

## 平成30年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成30年6月5日（火）13時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

- 場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80
  
- 出席者 委員：18名 オブザーバー：14名 事務局：5名 計37名
  
- 協 議 (1) 平成29年度事業報告（案）・収支決算（案）について  
(2) 平成30年度収支補正予算（案）について  
(3) 平成29年度中活基本計画の取組みに対する意見について
- 報 告 (1) 秋田市中通 CCRC 拠点整備事業について  
(2) ノーザンステーションゲート秋田の最新動向について  
(3) エリアなかいち商業施設の最新動向について  
(4) 第1回芸術文化ゾーン活用研究会の開催結果について  
(5) ミュージウム連携情報発信事業について  
(6) 秋田駅西口駅前広場改修事業について
- その他 (1) 東北経済産業局からの施策紹介

○発言内容

【三浦会長の開会挨拶】

本日はご多忙のところ、第1回協議会にご出席賜り誠にありがとうございます。

さて、第2期中活計画も早いもので2年目に入り、各事業とも概ね順調に進展しております。

第2期計画の中核事業である県・市連携新文化施設については、この5月末で秋田県民会館が閉館し、約3年後の完成に向けて解体工事が開始いたしました。いよいよハード面が動きだしたのに合わせて、施設の利用規則やPR方法などについて論議するため、5月28日には運営管理に関する検討委員会が開かれ、ソフト面についての検討もスタートいたしました。

一方で民間サイドでは、北都銀行を中心とする中通地区 CCRC 拠点整備事業において、国土交通省から共同施設整備についての補助が決定し、順調に着工に向けての準備が進められております。また、エリアなかいちでは、タニタ食堂の跡に、工芸品などの展示や販売に利用可能なレンタル店舗「なかいち秋田銘品館」が誕生しました。さらに、JRが取組む「ノーザンステーションゲート秋田」では、城東スポーツ整形クリニックが5月7日にオープンしたほか、エリアなかいち秋田犬ステーションと連携して秋田駅西口にふれあい体験コーナーを設けるなど、エリア内において様々な動きが活発化しております。このあと、それぞれの事業の進捗について、関係者からご報告いただき、皆様で情報の共有を図ってまいりたいと存じます。

本日は、平成29年度の事業報告・収支決算と、中活計画の進捗状況を国に報告するにあたり、当協議会からの意見を求められておりますので、それぞれご審議を賜りたいと存じます。

ご臨席の皆様からは忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げますとともに、行政関係機関をはじめとするオブザーバーの方々の日頃からのご支援・ご協力に感謝申しあげ、開会のご挨拶といたします。本日は、よろしくお願ひいたします。

#### 【委員紹介】

人事異動により、職務執行者に変更のあった委員を紹介した。新任者は次のとおり。

- ・秋田市 都市整備部 部長 田 畑 治 夫 様
- ・国立大学法人秋田大学 教授 篠 原 秀 一 様

#### 【協 議】

##### (1)平成29年度事業報告（案）・収支決算（案）について

事務局より年3回の協議会の開催や中小企業基盤整備機構の中心市街地商業活性化アドバイザー派遣制度の活用、青森県八戸市・十和田市・弘前市への先進地視察等の説明に加え、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画に掲載されている民間事業の円滑な推進を支援することを目的に、公募を行い、秋田市民市場活性化事業、川反通りサイン設置事業、秋田街屋プロジェクトの3事業を採択・支援した旨を説明した。特に、平成29年度は芸術文化ゾーン活用研究会を設置し、芸術文化ゾーン活用講演会の開催や年3回の研究会を開催している。引き続き、収支決算（案）について収支状況の詳細を事務局から説明し、田畑監事からの監査報告後、原案通り承認された。

##### (2)平成30年度収支補正予算（案）について

事務局より、平成30年3月26日に開催した平成29年度第3回協議会で承認された収支予算の繰越金について、決算見込額より振込手数料1件分の432円が加算となったため、繰越金額に変更が生じた旨を説明し、原案通り承認された。

##### (3)平成29年度中活基本計画の取組みに対する意見について

はじめに、秋田市都市総務課榎岡課長が下記のとおり説明した。

平成29年度認定中心市街地活性化基本計画は、中心市街地の活性化に関する法律およびその基本方針に基づき、認定を受けた市町村自らが設定した数値目標の確認や取組みの進捗状況などについて、計画期間中、原則毎年フォローアップを実施することが求められている。また、フォローアップの提出にあたっては、協議会からご意見をいただき、付記して提出することとなっているため、まずは、そのフォローアップの内容について説明させていただく。

最初の1頁は、中心市街地全体に係る評価として記載することとなっている。

本市では、平成29年4月の認定基本計画策定後、秋田駅のリニューアルや駅前大型商業施設のリニューアルなど、中心市街地での各種事業が順調に動き出している。

中でも、駅前大型商業施設のリニューアルにより、改装後の来店者数が3～4割増となっているだけでなく、その波及効果が周辺の既存大型商業施設にも現れ、中心市街地のにぎわい創出に大きく貢献し、その結果、基本計画策定時には計画されていなかった周辺商店街や既存大型小売店舗の連携による集客イベントが開催されるなど、中心市街地の活性化に向けた取組みが順調に進められている。

また、平成33年度中の完成に向けて、県・市連携文化施設整備事業の基本設計が完了し、旧県立美術館についても利活用案がまとめられたところである。既存の芸術文化施設と一体的に「芸術文化ゾーン」を形成し、相互に連携するだけでなく、周辺商店街・商業施設とも連携するなど、新たなまちの魅力・価値の創出に向けた動きが見られる。

中心市街地の活性化に向けた前述のような動きを受けて、長年空きビルとなっていた中心市街地内の旧ビジネスホテルについてもマンションへの建替が発表されるなど、ここ数年見られなかった大規模な民間投資が動きつつあるほか、空き店舗などを活用した新規出店、創業・起業に対する支援策もかつてないペースで利用されており、中心市街地の活性化に向けた好循環が生まれつつある。

2頁には、目標達成の見通しとして、①歩行者・自転車通行量、②芸術文化施設利用者数、③中心市街地における人口の社会増加数、④商業集積促進関連制度利用件数、⑤市民活動等施設利用件数に分けて、基本計画策定前の基準値、基本計画での目標値、最新の数値を記載している。

今回のフォローアップでは見通しとして、すべての項目で取組みの進捗状況は順調であり、目標達成は可能であると評価した。

評価理由についてであるが、

①「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」については、秋田駅前の大型商業施設がリニューアルのため長期休業中であったことと、調査実施日の直前に発生した記録的豪雨により、秋田市内において甚大な被害を受けた影響により減少したものと想定される。しかし、リニューアルした商業施設の来店者数が改装前と比べ3～4割増加しているなどの結果が現れており、今後の各種事業の効果発現により目標達成は可能と見込んでいる。

②「芸術文化施設利用者数」については県立美術館がリニューアルのため、3ヶ月間休館したことにより基準値を下回る結果になっているが、他施設は順調に利用者数が増加しており、今後、芸術文化ゾーンとして、既存施設の連携や新たな施設整備が進められることによって目標達成は可能と見込んでいる。

③「人口の社会増加数（累計）」については、平成28年は3人減（累計26人増）であったのに対し、29年は4人（累計28人増）の増加と順調に推移している。今後、日本版CCRC事業の完了などにより、目標達成は可能と見込んでいる。

④「商業集積促進関連制度利用件数」は平成29年度41件（累計72件）となっており、中心市街地内での新規出店等に対する支援策の拡充と活性化への機運の高まりを受けて目標を上回るペースで推移しており、目標達成は可能と見込んでいる。

⑤「市民活動施設等利用件数」は目標値を上回る結果となっており、目標達成は可能であると考えているが、現状で中心市街地内の施設は稼働率が相当高く、基本計画に基づき市民の需要を満たす新たな施設整備が期待されており、今後も引き続き各種支援策等を実施していくことが必要と考えている。

3頁以降は、目標指標毎のフォローアップ結果、目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果、目標達成の見通し及び今後の対策などを具体的に記載し、評価理由の根拠となっているが、ここでの説明は割愛させていただく。

今後のスケジュールについてであるが、協議会からのご意見をいただき、内閣府確認のうえ、6月末に市町村のホームページで公表する予定である。

続いて、事務局より下記のとおり追加報告があった。

秋田市より平成30年5月17日付けで基本計画の定期フォローアップに関する意見聴取についてご依頼を受け、回答期限は6月8日（金）までとなっている。資料に基づき意見文書を読み上げ原案どおり承認された。

## 【報 告】

### (1)秋田市中通地区 CCRC 拠点整備事業について

(株)北都銀行地域サポート部赤坂地方創生副部長が報告した。

現在は、基本設計・実施設計が終了し、7月に確認申請を行う。6月11日から解体工事を開始し、8月には一般競争入札により建設会社を決定する。本体工事は9月中旬頃に着工し、平成32年のオープンを目指す。

土地開発業者は、(株)大京、ミサワホーム(株)、秋田不動産サービス(株)の3社による共同企業体(JV)である。現在は広告の準備段階に入っており、10月から販売活動（分譲活動）、来年4月より売買契約を開始したいと考えている。

テナントリーシング（テナント誘致）については、前回の協議会において約90%程度決まったと報告したが、現在は3階の1区画のみ空いている状況となった。

1階には、秋田信用金庫様、(株)北都銀行および薬局が入居する予定である。2階は(株)北都銀行、くらしの保険室様、カフェ、フィットネスクラブが入居する予定である。3～4階には内科など3つのクリニックのほか、訪問介護ステーションや総合エステティックサロンが入居する予定である。5階より上層部は分譲マンション60戸となる。

CCRC 拠点施設を通じて、秋田駅を中心とした中心市街地の活性化に向け、関係各所と連携しながら進めていきたいと考えている。

進捗状況については、今後も随時報告させていただく。

### (2)ノーザンステーションゲート秋田の最新動向について

東日本旅客鉄道(株)秋田支社菊地支社長が報告した。

ノーザンステーションゲート秋田は、県・市・JR東日本の3者が中心となって推進する地方創生に向けたコンパクトなまちづくりの取組みを総称し、新幹線こまち開業20周年に合わせて昨年3月に立ち上げたプロジェクトである。

スタートとして着手したのは、秋田杉による「県都秋田の新たな玄関口の顔」の形成であり、本日お越しいただいている秋田公立美術大学の小杉教授のご協力を得ながら待合室や自由通路を改修し、昨年4月にグランドオープンした。

また、今年5月には城東スポーツ整形クリニックがオープンし、明日（6月6日）には、JR秋田ゲートアリーナの起工式を行い、平成31年冬の完成を目指している。

秋田県内初の合宿所と宿泊機能が備わった食事付き学生向けマンションについては、秋口に着工し、平成32年のオープンを目指している。

さらに、中心市街地の活性化を強力に推進していくため、今年4月には、秋田公立美術大学と包括連携協定を締結した。秋田駅を中心としたまちづくりに関する事項、沿線の活性化に関する事項、授業演習・共同研究に関する事項、次世代の地域づくりを担う人材育成に関する事項について連携し進めていきたい。

また、先日報道があった秋田駅西口駐車場エリアの整備については、可能であればABS秋田放送様の協力を得ながら、当社グループ会社であるメトロポリタン側のバスターミナルエリアも含め、一体的な賑わいづくりに取組みたいと考えている。

### (3) エリアなかいち商業施設の最新動向について

秋田犬常設施設「秋田犬ステーション」が4月15日にオープンした。5月31日までに12,900人が来場した。1日あたり500人程度が来場している計算である。メディアへの露出も多く全国放送や共同通信社などでも取り上げられている。

秋田犬の「飼育頭数の拡大」「殺処分ゼロ」を目的としたONE FOR AKITAプロジェクトでは、13社からの支援と秋田犬ステーション等で販売した秋田犬グッズの売上の一部により242,589円の寄付金が集まった。

これを資金として、飼育放棄により保健所へ収容されている秋田犬の保護活動を開始し、2頭の秋田犬を保護した。このうち1頭については里親を募集している。

その他詳細については、ONE FOR AKITA事務局にお問い合わせいただきたい。

次に、当社では、5月24日になかいち秋田銘品館をタニタ食堂跡にオープンさせた。テーマは「秋田の人が秋田の物を展示・販売・情報発信する場」である。約150㎡のスペースの中に複数の店舗が入店している。現状では、秋田の伝統工芸品、陶器、発酵食品などを扱う店舗が出店している。

販売スペースは1日単位での利用、レンタル店舗は月単位での利用形態としている。是非ご利用いただきたい。

### (4) 第1回芸術文化ゾーン活用研究会の開催結果および(5)ミュージアム連携情報発信事業について

事務局より、資料を基に平成30年4月27日に開催した第1回研究会の開催状況およびミュージアム連携情報発信事業で配布している秋田市アートなまち歩きの近況を報告した。

#### **(6)秋田駅西口駅前広場改修事業について**

秋田市都市総務課榎岡課長より説明。秋田駅前の既存平面駐車場を改修し、広場内の交通機能の向上を図り、県都の玄関口に相応しい環境空間を整備することを目的とし、6月補正を市議会に提出する。補正予算額は9,268,000円となっている。今年度は基本計画、基本設計を行う考えである。全体の事業期間は平成31年までとし、ABS秋田放送の新社屋での放送開始までの完成を目指している。

#### **【その他】**

##### **(1)東北経済産業局からの施策紹介**

東北経済産業局商業・流通サービス産業課 渡邊課長が資料に基づき国の施策を紹介した。

#### **【出された意見・質問】**

特になし

閉 会